

公開質問と各候補者の回答

市民ウオッチャー・京都は、本年2月4日投開票の京都市長選挙に立候補を予定している福山和人さん、村山祥栄さん、松井孝治さん及び二之湯真土さんの4人の方々に以下の公開質問を行いました。そのうち福山和人さん、村山祥栄さん及び松井孝治さんから回答をいただきました。到着順に公開します。なお敬称は省略させていただきます。

【質問事項と回答】

1 現在、京都市内は地価が高騰しています。そのため、住宅価格が上がり、若年層が周辺地域に流出しているといわれています。そこでお聞きします。

(1) 貴殿は、地価高騰の原因をどのようにお考えですか。

(福山和人)

考えられるいくつかの原因の中でも、過剰なホテル建設が大きいと考えます。また、建物の規制緩和はさらなる資本流入による、さらなる地価高騰を招く恐れがあると考えます。

(村山祥栄)

ホテルの過剰誘致とそれに伴う住宅やオフィスの供給不足が原因と考えます。

(松井孝治)

都市部における地価の上昇は、全国的な傾向と考えられます。京都市の全体的な動向としては、人口が増加傾向にある都心部で地価が上昇しており、人口が減少傾向にある周辺部で地価の上昇が緩やかあるいは横ばいの状況にあると認識していますが、地価の変動の状況は地域によって異なっており、様々な要因が複合的に影響していることから、社会情勢やそれぞれの地域の特性を踏まえた丁寧な分析・対応が必要と考えています。

(2) 地価の高騰を防ぐためにどのような施策を市民に提案しますか。

(福山和人)

過剰なホテル誘致、建物の規制緩和方針を見直します。子育て世代の住宅ニーズについては、市営住宅や改良住宅、空き家などのリフォームをすすめます。

(村山祥栄)

ベッド数の総量をコントロールするホテルの立地規制条例の新設
空き家対策として住宅供給公社による定期借地分譲を検討

(松井孝治)

一般的に、都市や地域の魅力が高まると地価は上昇すると考えられますが、一方で、投機的な土地取引の集中により地価が高騰することは望ましくないため、動向を注視していく必要があります。住宅価格については、建築資材や人件費の上昇の影響も考えられるため、地価が落ち着いている市内周辺部を中心に、空き家などのストックの有効活用も含め、良質で低廉な住宅の供給を増やす必要があります。

(3) 「若年層流出を止める」ため、市民に提案する具体的施策はありますか。

(福山和人)

市営住宅・改良住宅は約2万3千戸あり、そのうち約6千戸の空き家を活用するとともに、約11万戸の市内の民間空き家のリフォームを助成し、低廉な家賃で利用できるように、子育て世代・学生・若者の優先入居を進めます。

また、深刻な子育て世代の人口流出は、地価高騰とともに子育て世代の政策の貧困があると考えます。①子ども医療費、②給食、③保育料、④国保料均等割、⑤給付制奨学金創設の「5つの無償化」、巨大センター方式ではなく学校調理方式の中学校給食の実施、小中学校へのフリースクール開設をはじめとする不登校対策など、ハード&ソフトの両面で徹底した子育て・若者支援を行います。

(村山祥栄)

山科、醍醐、洛西、洛南エリア等の周辺部に教育資本の集中投下
同じエリアのシティーセールスを実施し、エリアのリブランディングを行う

(松井孝治)

空き家などのストックの有効活用も含め、良質で低廉な住宅を、特に地価が落ち着いている市内周辺部で増やしていくとともに、企業立地促進やスタートアップ支援により、若者・子育て世代に定住いただくための仕事をつくること、更に、経済的負担の軽減など子育て・教育環境を充実していくことが重要です。

2 京都市内では、観光客が押し寄せ、公共交通をはじめ市民生活への支障が発生しているといわれています。観光による繁栄と市民生活の向上のために、お聞きします。

(1) 貴殿は、観光客の急激な増加によって市民生活にどのような問題が生じていると考えておりますか。

(福山和人)

民泊が住宅地の中にできたことで宿泊客が夜中まで騒ぐ・ボヤ騒ぎを起こすなど周辺住民が安心して暮らせない、路地裏で夜中にキャリーケースの音がうるさくて大変、観光客で混雑してバスに乗れない、など、市民生活に深刻な影響を及ぼしている状況が市内各地でおこっています。

(村山祥栄)

最も深刻なのは交通混雑の問題です。

(松井孝治)

インバウンドの本格的な回復により、観光客の集中・混雑、市バス車内の混雑、ごみのポイ捨てなどの問題が生じて市民生活に影響を与えていると認識しています。

(2) 市民生活の支障を緩和し、同時に観光を発展させるにはどのような政策を提案しますか。

(福山和人)

観光は、市民の生活やなりわいが豊に営まれていることが前提であり、「住んでよし、訪れてよし」の理念が重要です。

京都市はこれまで宿泊施設誘致を進めてきましたが、この方針は見直し、宿泊施設の総量規制を行うことが必要です。また、路地奥への宿泊施設の設置も、住民合意を認可の前提にするなどの対策を進めます。同時に、地元の旅館や優良な民泊を応援します。交通混雑については、一般車両の流入規制、観光路線のバス増便、住民と観光客とのバスの分離などの対策を行います。

さらに、「旅行」から「滞在」へ、「見る観光」から「体験する観光」へ、「観光地観光」から「交流型観光」へのシフトとそのための支援をおこないます。

(村山祥栄)

市バスの生活路線、観光路線の分離（一日乗車券も別々に）
地下鉄・バスの乗り継ぎ無料化

手ぶら観光促進のためのロッカー整備

(松井孝治)

市バスの観光路線と生活路線の棲み分け、観光ハイシーズンの市外からのマイカー乗り入れ規制、ごみのポイ捨てに対する規制強化、京都市内だけでなく広域的な視点での観光の分散化など、混雑対策・観光マナー対策の取組を徹底し、市民生活との調和を図る必要があります。

3 北陸新幹線を京都まで延伸する計画があります。まだルートが決まっていない現状です。そこでお聞きします。

(1) 貴殿は、北陸新幹線の京都までの延伸に賛成ですか、反対ですか。

(福山和人)

京都市の地下を通す現行ルート案には反対です。

(村山祥栄)

京都市の財政負担と環境への問題がクリアできなければ反対です。

(松井孝治)

必要性は理解しています。

(2) その理由をお聞きします。

(福山和人)

大深度地下という工事自体の困難性、数千億円ともいわれる莫大な財政負担のおそれ、地下水への悪影響、膨大な量と重金属を含む可能性のある建設残土の処理、大型トラックの往来による地域の環境悪化など、多くの問題点があります。

(村山祥栄)

国やJRとの財政負担の議論と環境アセスメントの結果を注視しています。

現時点では米原ルートが適正ではないかと考えておりますが、自治体負担・環境負荷・費用対効果など、多角的な視点で検証し、判断していく必要があると考えています。

(松井孝治)

北陸新幹線の延伸（敦賀～新大阪間）は、京都はもとより関西全体の発展につ

ながら国家プロジェクトであり、国土軸の整備として延伸の必要性は理解していません。

他方、現時点ではルートや工事の内容が決まっていないことから、鉄道・運輸機構が行っている調査の結果を基に、専門家のご意見を十分にお聞きして、自然環境や市民の生活環境、地元の財政負担に最大限配慮した計画となっているかをしっかり精査したうえで、慎重に判断する必要があります。

そのうえで、国や鉄道・運輸機構に対し、市民や商売をされている方々が不安に陥られることがないように、十分に説明を尽くすことを求めています。

4 京都市では、現市長が「放置すれば財政破綻する」と言って、人件費削減、公共サービスの削減（保育園への補助金削減、敬老乗車証の値上げ、使用料・手数料の引き上げなど）、公共施設・公有地の廃止や売却などを行いました。そこでお聞きします。

(1) 京都現市長の「財政危機」宣言については、どのように考えますか。

(福山和人)

京都市財政は、地下鉄建設などの大型ハコモノ事業のツケで慢性的な財政難に陥っています。しかし、このことを口実に、「社会的な課題の解決を行政がやる時代は終わった」と述べて「行財政改革計画」をつくり、福祉を大幅にカットするなど、公共の責任を放棄したことは間違いです。私は、「行財政改革」を見直して、財政健全化と福祉の向上を両立させます。

(村山祥栄)

コロナ禍で先が見えない状況下でしたので「財政危機」宣言はやむを得なかったのですが、そもそも財政改革はもっと早期に行ってソフトランディングさせるべきだったと思います。

(松井孝治)

市域の4分の3が森林、課税対象でない歴史的遺産が多い、構想の建築物を建てにくい、学生の割合が高いなど、京都市の財政には構造的な課題があると考えています。

(2) 市長になられた場合、上記削減された市民サービスを見直す提案をする予定はありますか。

(福山和人)

私は、削られた保育園補助金・引き上げられた学童保育料・値上げされた敬老乗車証を元に戻します。まちは、そこで暮らす市民が豊に安心して暮らせてこそ発展します。私は、子育て・若者支援をはじめとする市民の暮らし・なりわい応援策を、徹底的にやり抜きます。

(村山祥栄)

教育をはじめ、京都市の発展に資する戦略的な投資に予算を付けていく過程で見直しも一部検討します。

(松井孝治)

市政は、社会情勢の変化等を踏まえ、常に改革していく必要があると考えます。

(3) 削減された市民サービスを見直す場合、新たな財源もしくは財政全体を見直す必要があると思いますが、どのように市民に提案しますか。

(福山和人)

財政の慢性的危機の対策は、無駄な出費を削ること、収入を増やすことの2つに尽きます。無駄な出費を削るために、大型公共工事は優先順位を付けて仕分けします。収入を増やすために、まず宿泊税の税率アップや新たな観光財源確保も含め観光客の方々に相応の負担を求めます。また、市営住宅や改良住宅等のリフォームや再生エネ・省エネ工事、防災工事、学校の改修工事、物品・役務の発注等を徹底的に地元中小企業優先で進めて地域経済を活性化させます。お金が地域に循環すれば税収もアップします。

こうした暮らし・なりわいの応援は弱者救済のコストではなく、地域活性化の原動力です。私は、暮らしの応援によって地域経済と市の財政を再建する京都モデルをつくります。

(村山祥栄)

テクノロジー（特にデジタル）と民間活力の活用により、コストを下げながら行政サービスの向上を行います。

(松井孝治)

財源対策では、宿泊税を見直し、観光課題解決や市民の皆様の暮らしの豊かさにつながる取組に活用できる財源を確保します。また、担税力を強化するため、大学発ベンチャーやスタートアップの創出、企業立地支援などに取り組むとともに、国や京都府、産業界と連携強化し、戦略的に京都経済の発展、都市の成長戦略につなげます。

5 京都市内では市有地を売却するなどして、通常の規制を超える大規模（高級）ホテルの建築が許可されています。また将来、大型マンション構想（いわゆるタワマンを含む）もあるといわれています。市民の間には、高さ規制をはじめ様々な規制が緩和されてしまうのではとの懸念があります。そこでお聞きします。

(1) 貴殿は、大規模高級ホテルや大型マンションの建設を進める施策をどのようにお考えですか。

(福山和人)

大規模高級ホテルはもちろん、今の宿泊施設拡充・誘致方針を撤回し、宿泊施設の総量規制を行います。また、高さ規制を緩和してタワーマンションを建てることを推進するのではなく、市民参加型の議論をおこないつつ、新景観政策を堅持して、京都のまちなみと市民の暮らしを守ります。

(村山祥栄)

ホテルは既に過剰な為、不要と考えます。大型マンションは、周辺地域の一部では有効だと考えます。

(松井孝治)

それぞれの地域の特性を踏まえ、地域の魅力向上や地域の課題解決に資する良質な民間投資を誘導していくことが重要と考えます。

(2) その理由をお聞きします。

(福山和人)

この間、高級ホテル誘致の一環として、小学校跡地に海外や東京資本のホテルの立地を進めたため、地域コミュニティの拠点が失われるという事態まで引き起こされています。オーバツーリズムの解消のためにも、宿泊施設の総量規制が必要です。

また、今の市政は、子育て世代の流出対策として、高さ規制を緩和してタワーマンションを建設できるようにする、とされていますが、地価が高騰している現状では、タワーマンションができて子育て世代には手が出ません。人口流出対策というのであれば、その原因である、貧困な子育て政策を転換する必要があります。私は先に示した「5つの無償化」をはじめとした、子育て・暮らしを全力で応援する市政に変えます。

(村山祥栄)

周辺地域のエリアブランディングの一環で有効と考えます。

(松井孝治)

都市の持続性を確保し、成長・発展を支えるためには、さまざまな都市機能を、地域の特性に応じて誘導することが重要と考えます。

以上